



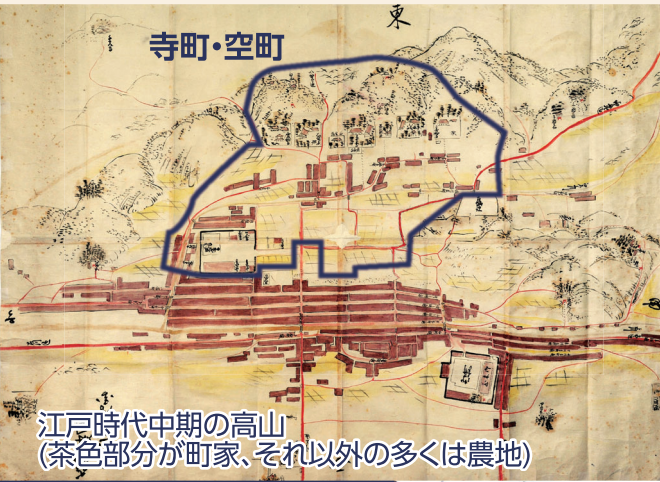
目指せ伝建地区
寺町・空町地区
町並調査プロジェクト

伝統的建造物群保存地区選定に向けた調査で分かってきたこと

伝建地区として町並みを残していくためには、その地域がどのような歴史を辿ってきたかを知る必要があります。市では令和2年度から専門家に委託し、町並みの外観調査、住宅やお寺、神社などの建物の調査、関係資料の調査などを行っています。その中で分かってきたことの一部を紹介します。

武士はいなくなつた

元禄5年(1692年)、金森氏は家臣たちとともに現在の山形県上山市へ移され、江戸幕府が直接治めることになりました。そのため武士が住んでいた空町は更地となり、町人に売り払われました。その土地の多くは幕末まで農地として利用されてきました。



江戸時代中期の高山(茶色部分が町家、それ以外の多くは農地)

島川原町や若達町、愛宕町の街道沿いや鉄砲町、お寺の門前などは、幕府の直轄地となつてから徐々に店舗などの町家が増えていきます。また、街道の往来や社寺へのお参りのために人の往来が多い場所に多くの家が建ち始めたことが分かりました。

広がる町家



愛宕町の町並み

今後のスケジュール(予定)

- 【令和5年3月】文化庁に提出する報告書の完成
- 【令和6年度】地域住民との意見交換・合意形成・特定物件(昭和30年代以前の建物など)として同意
- 地区範囲の決定
- ・保存活用計画の策定
- 【令和7年度】伝建地区の選定



専門家による調査の様子

町並み保存の主役は住民の皆さんです

京都工芸繊維大学

教授 清水重敦さん



下二之町大新町地区の選定に携わりましたが、当時と比べると町並みの風格が増しました。伝建制度を活用した修繕を積み重ねてきたことから、全体の調和がとれてきたためです。また、三町地区は、全国を代表する防災設備や組織が充実した地区となっています。制度の活用により、近所の数軒で連動したグループ自動火災報知器の設置、消火栓を短区間に設置するなど住民が自主的に防災できる仕組みが充実しているためです。伝建制度を活用することで、町並みの景観を守るだけでなく、安全で住みやすいまちづくりにつながります。

寺町・空町地区は、各寺院で門や本堂、庫裏などの構造が異なる多様性があるなど、全国でも珍しい魅力があり、今後も守るべき価値のある場所です。町並み保存は、私たちのような研究者や行政も全力でバックアップさせていただきますが、主役は住民の皆さんです。自分の問題としてまちづくりに取り組んでいただける人が増えることを願っています。